

トラック運送事業者業務効率化支援事業補助金交付要綱

令和 6 年 4 月 1 日
総合政策部総合交通課

(趣旨)

第 1 条 県は、トラック運送事業者の業務効率化を進め、物流網の安定的な維持を図るため、予算で定めるところにより、トラック運送事業を行う者に対し補助金を交付するものとし、その交付については、補助金等の交付に関する規則（昭和 39 年宮崎県規則第 49 号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、この要綱に定めるところによる。

(補助事業者)

第 2 条 前条の補助金の交付の対象となる者（以下「補助事業者」という。）は、次の要件を満たす者とする。

- (1) 貨物自動車運送事業法（平成元年法律第 83 号）第 2 条第 2 項に規定する一般貨物自動車運送事業又は同条第 3 項に規定する特定貨物自動車運送事業を行う者（以下「トラック運送事業者」という。）
- (2) 県税に未納がないこと。
- (3) 地方税法（昭和 25 年法律第 226 号）第 321 条の 4 及び各市町村の条例の規定により、個人住民税の特別徴収義務者とされている法人にあっては、従業員等（宮崎県内に居住している者に限る。）の個人住民税について特別徴収を実施している者又は特別徴収を開始することを誓約した者。
- (4) 前条の事業を実施する主体の構成員等が、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号）第 2 条第 2 号に規定する暴力団（以下「暴力団」という。）若しくは同条第 6 号に規定する暴力団員（以下「暴力団員」という。）でないこと又は暴力団若しくは暴力団員と密接な関係を有しないこと。
- (5) 宮崎県内に本社又は営業所があり、補助金の交付の申請時において現に営業していること。
- (6) その他補助が適当でないことと知事が認める者でないこと。

(補助対象経費及び補助率)

第 3 条 第 1 条の補助金の交付の対象となる経費及びそれについての補助率は、別表に定めるとおりとする。

(補助金の交付の申請)

第 4 条 補助金の交付の申請をしようとする者は、当該補助金に係る仕入れに係る消費税等相当額（補助対象経費に含まれる消費税及び地方消費税相当額のうち、消費税法（昭和 63 年法律第 108 号）に規定する仕入れに係る消費税額として控除のできる部分の金額と当該金額に地方税法に規定する地方消費税率を乗じて得た金額の合計額に補助率を乗じて得た額をいう。以下同じ。）がある場合には、これを減額して申請しなければならない。ただし、申請時において、当該補助金に係る仕入れに係る消費税等相当額が明らかでない者については、この限りでない。

(申請書に添付すべき書類)

第5条 規則第3条第1号の事業計画書の様式は別記様式第1号、同条第2号の収支予算書の様式は別記様式第2号によるものとする

2 規則第3条第4号の規定により補助金等交付申請書に添付すべき書類は、別表に掲げる書類とする。

(補助条件)

第6条 規則第5条の規定による補助条件は、次のとおりとする。

- (1) この補助金に係る経理を他の経理と明確に区分し、その収支の状況を明確にした書類を整備の上、補助事業(第1条の補助金の交付対象となる事業をいう。)が完了した日の属する年度の終了後5年間保存すること。
- (2) 規則第21条第1項の規定により知事の承認を受けて財産を処分することによる収入があった場合には、その収入の全部又は一部を県に納付すること。
- (3) 補助事業により取得し、又は効用の増加した財産については、補助事業完了後においても善良な管理者の注意をもって管理するとともに、その効率的な運用を図ること。
- (4) その他規則及びこの要綱の定めに従うこと。

(申請の取下げ)

第7条 規則第8条第1項に規定する知事の定める期日は、補助金の交付決定の通知を受領した日から起算して10日を経過した日とする。

(軽微な変更の範囲)

第8条 規則第10条第2項ただし書の規定により知事の定める軽微な変更の範囲は、次に掲げる変更以外の変更とする。

- (1) 補助対象事業の内容の変更
- (2) 補助対象経費の20パーセントを超える増減

(補助金の交付方法)

第9条 この補助金は、精算払により交付する。

(実績報告)

第10条 規則第14条第1項の規定による実績報告は、補助事業実績報告書に別表に掲げる書類を添えて、事業の完了の日から起算して30日を経過した日又は補助金の交付決定のあった年度の翌年度の4月20日のいずれか早い期日までにしなければならない。

- 2 第4条ただし書の規定により仕入れに係る消費税等相当額を減額しないで交付の申請をした者は、前項の実績報告をする場合において、当該補助金に係る仕入れに係る消費税等相当額が明らかになった場合には、これを補助金の交付決定額から減額して報告しなければならない。
- 3 第4条ただし書の規定により仕入れに係る消費税等相当額を減額しないで交付の申請をした者が第1項の実績報告をした後において、消費税及び地方消費税の申告に

より当該補助金に係る仕入れに係る消費税等相当額が確定した場合には、その金額（前項の規定により減額をした各事業主体にあつては、その金額が減じた額を上回る部分の金額）を別記様式第7号により速やかに報告し、知事の返還命令を受けて仕入れに係る消費税等相当額の全部又は一部を返還しなければならない。

（財産処分の制限）

第11条 規則第21条第1項ただし書の規定により知事の定める期間は、減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号）に定められている耐用年数に相当する期間とする。

2 規則第21条第1項第2号の規定により知事の定める財産は、1件20万円以上の機械及び器具とする。

（書類の提出部数等）

第12条 規則及びこの要綱の規定により知事に提出する書類の部数は、それぞれ1部とし、その様式は、規則に定めのあるものを除き、別記に定めるところによる。

（雑則）

第13条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、令和6年4月1日から施行し、令和6年度の予算に係るトラック運送事業者業務効率化支援事業補助金から適用する。

別表

補助対象経費	<p>トラック運送事業者の業務効率化に資する事業であって、次のいずれかに該当する経費とする。</p> <p>(1) 運行の効率化に資するシステムや機器の導入（配車計画や車両動態管理のためのシステム、デジタル運行記録計など）</p> <p>(2) 荷役作業の軽減に資する機器の導入（アシストスーツ、フォークリフト、テールゲートリフター、標準パレット、ロールボックスパレット（カゴ車）など）</p> <p>(3) 共同配送や中継輸送の導入（導入を目的とした検証費用（コンサル費用等）、共同配送や中継輸送に取り組むための環境整備（システム導入）など）</p> <p>(4) その他業務効率化に資する事業であって知事が必要と認めるもの。</p>
補助率	<p>1 / 2 以内（千円未満の端数は切り捨てる。）とし、補助額の上限は1事業者あたり100万円とする。</p>
申請書に添付すべき書類	<p>(1) 第2条第2号に係る納税証明書（県税に未納がないことの証明）（原則として申請を行う日から3か月以内のもの。写しでも可。）</p> <p>(2) 第2条第3号に係る個人住民税の特別徴収実施確認・開始誓約書（別記様式第3号）</p> <p>(3) 第2条第4号に係る（暴力団関係者に該当しないこと）の誓約書（別記様式第4号）</p> <p>(4) その他知事が必要と認める書類</p>
実績報告書に添付すべき書類	<p>(1) 事業実績書（別記様式第5号）</p> <p>(2) 収支決算書（別記様式第6号）</p> <p>(3) 導入した機器等の写真</p> <p>(4) その他知事が必要と認める書類</p>